

037 マタイの召命

マタイによる福音書 9 : 9~13、マルコによる福音書 2 : 13~17、ルカによる福音書 5 : 27~32

▶マタイを弟子にする (マタイによる福音書 9 : 9~13)

09 イエスはそこ (→ガダラ) をたち、通りがかりに (→場所: カファルナウム)、**⑧マタイ**という人 (→徴税人、取税人) が収税所に座っているのを見かけて、「**わたしに従いなさい**」(→Follow me) と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った (→ルカによる福音書 5 : 28 彼は何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った)。

→ローマ帝国は税金を徴収するためにその代理人として税 (所得税、通行税) や罰金を徴収するために地元の人々を雇った (現代の税務署員とはもちろん異なり、当時のユダヤの口伝律法 (成文法ではない、言い伝えによる律法) では徴税人になることは禁じられ、指導者たちは、徴税人を盗人のように考え、徴税人と交わることを禁止し、また徴税人にうまく騙されないように嘘の申告をすることも認めていた)。徴税人としての職は、入札で最高額を入れた者に与えられ、この仕事は、大きな利益を齎 (もたら) すものであった (→民衆から集めた額とローマに納める決められた額との差額が徴税人の豊かな利益となった。この悪習はローマも公認していた)。ユダヤ人の徴税人は同胞に嫌悪され、自らの国や宗教、家族をも裏切る者と見なされた。徴税人だったマタイはイエスの十二人の弟子に加えられる。マルコによる福音書 2 : 14 およびルカによる福音書 5 : 27 では、マタイの代わりに「レビ」の名が記されている。

→ (マルコによる福音書 2 : 14) そして通りがかりに、アルファイの子**⑧レビ**が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。

→ (ルカによる福音書 5 : 27) その後、イエスは出て行って、**⑧レビ**という徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。

→マタイが弟子として召されている

(マタイによる福音書 4 : 18~22) イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれる**①シモン**とその兄弟**②アンデレ**が、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子**③ヤコブ**とその兄弟**④ヨハネ**が、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。

(マタイによる福音書 10 : 1~4) イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊に対する権能をお授けになった。汚れた霊を追い出し、あらゆる病気や患いをいやすためであった。十二使徒の名は次のとおりである。まずペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、**⑤**イリポと**⑥**バルトロマイ、**⑦**トマスと徴税人の**⑧**マタイ、アルファイの子**⑨ヤコブ**と**⑩**タダイ、熱心党の**⑪**シモン、それにイエスを裏切ったイスカリオテの**⑫ユダ**である。

10 イエスとその家 (→マタイの自宅) で食事しておられたときのことである。①徴税人や②罪人も大勢やって来て、③イエスや④弟子たちと同席していた。

11 (外にいた) ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、「**なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか**」と言った。

12 イエスはこれを聞いて言われた。「**医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。13『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」**

→わたしが喜ぶのは／愛であっていけにえではなく／神を知ることであって／焼き尽くす献げ物ではない (ホセア書 6 : 6)。

→But go and learn what this means: 'I desire mercy, not sacrifice.' For I have not come to call the righteous, but sinners.' (NIV)

【参考】ローマ人の食事の席(寝転んでの食事)



ローマの富裕層たちは、邸宅の中にある「トリクリニウム」(ギリシア語で「3台の臥台」という意味)と呼ばれる部屋で、「レクトゥス・トリクリナリス」と呼ばれる食事専用の臥台(寝椅子)に寝そべて食事(晩餐)会を行った。元は小アジアの習慣で、埋葬時の死者を表し、この習慣がギリシアやエトルニア(BC8世紀からBC1世紀頃にイタリア半島中部にあった都市国家)に伝わり、ローマへと広がった。寝た姿勢で食事をするのは不便であったが、貴人のステイタスとして採用された。

寝椅子「レクトゥス・トリクリナリス」は木材、青銅、象牙、銀などで作られ、テーブルに向かって少し上向きの傾斜があり、その上にクッションやクロスを敷いて使用した。食事の作法としては、①左脇を下にして寝そべり、②左の肘で体を支え、③右手でテーブルに置かれた食べ物を素手づかみで取って食べた(ナイフやスプーンを使って食べることもあったし、左手を使うこともあった)。

1台のレクトゥス・トリクリナリスは3人用で、3台のレクトゥス・トリクリナリスがテーブルをコの字形に囲むように置かれた。通常9人ないしは10人程度で行われるのが一般的だったが、その他に特別来賓用として、主にVIPをもてなす少数人数用の小さなトリクリニウムを備えた邸宅もあった。また、座席には上席や末席があって、社会的地位によってその位置が厳格に決められていた。

列席者の主賓は馬蹄型上辺にあたる臥台の一番左側(下図①)に座った(①の位置は「執政官の座」と呼ばれ、日本でいうところの上座である)。以下、上辺の左から右(②から③)、左辺の上から下(④から⑥)、右辺の上から下(⑦から⑨)、という順番になっていた。

招いた邸宅の主人は左辺の上部で、主賓と会話できる位置をとることが多かった。

マナーとして、出席者は公服である「トガ」という白く細い毛糸(ウール)で織られた服で正装(男女に大きな違いはない)をしなければならなかった。ローマの元老院の議員たちが着る布を巻き付けたような服で、布幅は、身長3倍もあった。通常、ローマ人は「トゥニカ(チュニカ)」と呼ばれる短衣を着ており、トガはそのトゥニカ(チュニカ)の上に体に巻き付け羽織った(外国人・奴隷・解放奴隷は身に付けることが許されなかった)。トガは高価だったため、持っていない者は招待主から借りて着用した。トガに代わるものとして、食事用の使い捨てのいろいろな色で出来た服「シュンテシス」を着ることもあった。

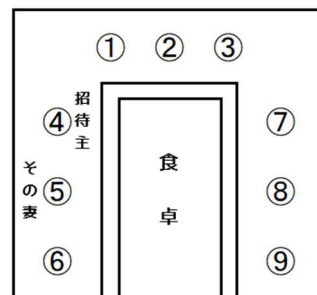


なお、料理は、前菜、メイン料理、デザートというコース料理がふるまわれた。世界中から珍味などが集められ、満腹になると鳥の羽で喉を刺激して、食べた物をすべて吐き出して、また、次の料理を口にする者もいた。メロン、牡蠣などはローマ人が食べ始めたと言われている。

ローマ帝国の哲学者セネカは、「ローマ人は食べるために吐き、吐くために食べる」と評した。

【参考】庶民の男性は、正装として腿丈のトゥニカの上から無地無染色の自然のままの羊毛の色(濃いベージュ)のトガを着た。トガを着つけるのは非常に煩わしかったので、BC1世紀頃から日常ではトゥニカを二枚重ね着したり、ギリシア風外套を着るのが普通になった。トゥニカは古代ギリシアのキトンから発展したもので、ウールでできた大判のTシャツのような服で、五分袖から七分袖程度の袖が付き、膝下丈(労働時にはベルトでたくしあげて膝上丈)で着た。袖や裾が長いものは軟弱だとされ嫌われた。トガが現在のスーツなら、トゥニカはシャツとジーンズのようなもので、貧しい市民はトゥニカだけを衣類とした。

席 順 **敵守**



※参考：最新世界史図説タペストリー(帝国書院)／日伊相互文化普及協会
古代ローマライブラリー／ウィキペディア「トガ」

【参考】リーダーウォーク loose leash walking(リードが緩んだ状態での散歩)

犬を散歩させるときは原則として、飼い主が犬にリードをつけ、行わなければなりません(家庭動物等の飼養及び保管に関する基準、各都道府県には独自のルールも設けられています)。リーダーウォークとは、犬がリードleadを引っ張らず、自発的に飼い主の足元に寄り添って歩いてくれる状態を言います。

こうしたルールを守らなかつたり、リーダーウォークができていない場合、犬の身に危険が及ぶ危険性があります。

参考：公益社団法人 [日本警察犬教会](#)

これは私たちにも言えることです。このコロナ禍で、いつのまにか、道である存在を忘れ、間違っただ道を歩まないように注意しなければなりません。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 13 / 聖句等の総数 33250 (わたしに従いなさい)13個] [検索語彙: わたしに従いなさい]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	9:9 イエスはそこをたち、通りがかりに、マタイという人が収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。	
S マタイによる福音書	16:24 それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」	
S マタイによる福音書	19:21 イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S マルコによる福音書	2:14 そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見かけて、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。	
S マルコによる福音書	8:34 それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」	
S マルコによる福音書	10:21 イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S ルカによる福音書	5:27 その後、イエスは出て行って、レビという徴税人が収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ルカによる福音書	9:23 それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」	
S ルカによる福音書	9:59 そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。	
S ルカによる福音書	18:22 これを聞いて、イエスは言われた。「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」	
S ヨハネによる福音書	1:43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ヨハネによる福音書	21:19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。	
S ヨハネによる福音書	21:22 イエスは言われた。「わたしの来るときまで彼が生きていることを、わたしが望んだとしても、あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」	